

# たぐら

兵庫の漁業人のための情報誌

TAKUSUI  
No. 656

6

June. 2011

発行 (財)兵庫県水産振興基金



JF全漁連 服部会長に目録を手渡すJF兵庫漁連 山田会長(新大阪ワシントンプラザにて)

## JF全漁連 服部会長へ義捐金を寄託

- Report** 摂津船びき漁業協議会が「マリン・エコラベル」取得  
乾のり最終共販・兵庫のり新商品モニター調査会
- NEWS** 各地で総会が開催される

## JF全漁連 服部会長へ義捐金を寄託

～東北地方太平洋沖地震JFグループ兵庫支援本部からJF全漁連へ～

東北地方太平洋沖地震JFグループ兵庫支援本部は、5月13日（金）、大阪市の新大阪ワシントンホテルプラザにおいて、今回の大震災で被災した漁業者支援に係る義捐金（119,188,015円）を、同支援本部を代表しJF兵庫漁連 山田隆義会長からJF全漁連 服部郁弘会長に寄託しました。

目録贈呈に際し、山田会長は「この度の震災ではJF全漁連自体も被災した状況に関わらず、早急な対策本部設置などの対応を行われたことに対し敬意を表します。兵庫県は阪神・淡路大震災時に全国から多大な支援を頂いたことを有り難く思っています。今回の義捐金は兵庫の時と同様に、被災地の漁業者に為に役立てて頂きたい。また、今後は支援等を行うにあたり現地の中古漁船

の要望等の情報も流して頂きたい。」と述べられ、服部会長は、「ご協力頂きありがとうございます。兵庫の皆様のご厚志は確かに受け取りました。被災地の漁業者へ届けさせて顶きます。」と謝意を述べられました。

本県関係者から寄せられた心温まる被災地支援は義捐金のほか、各漁協や団体から、イカナゴくぎ煮、味付けのり、干カレイ、加工食品、乾電池、長靴、生活用品などの物資を直接被災地に届けられたものも多数あります。

改めて皆さんの力強い激励と支援に感謝するとともに、被災地が真に復興するまでは、私たちは引き続き支援活動を続けていこうではありませんか。

**【東北地方太平洋沖地震JFグループ兵庫支援本部】**



目録を読み上げる山田会長



組合長会議で義捐金募集に一致協力が確認されました。  
(3月17日：組合長会議で撮影)

### 東北地方太平洋沖地震義捐金について

(平成 23 年 5 月 31 日 現在)

**義捐金総額 119,543,242円**

【内訳】

	金額 (円)	団 体		組合員・役職員		そ の 他	
		件数	金額 (円)	件数	金額 (円)	件数	金額 (円)
組合加工協	65,780,667	46	31,098,009	36	32,052,375	24	2,630,283
系統団体等	43,943,917	10	34,070,000	10	9,705,616	5	168,301
そ の 他	9,818,658	13	6,525,160	3	3,292,898	1	600
合 計	119,543,242	69	71,693,169	49	45,050,889	30	2,799,184

註)「その他」は JF グループ兵庫関係先の個人・会社等からのご厚志です。



# 平成22年度のり共販終了



商社の皆さんに挨拶するJF兵庫漁連 山田会長  
(右は兵庫県海苔入札指定商組合 松谷理事長)

平成22年度 兵庫県乾のり共販は5月10日(火)開催の第13回入札会をもって今漁期の全日程を終了しました。結果は別表のとおりで 対前年比で共販枚数、共販金額ともに約80%、平均単価は7.99円にとどまりました。最終共販日だったこの日、JF兵庫漁連 山田隆義会長から出席の指定商社の皆さんに先ず今漁期のお礼を述べた後、「過去30年間で、はじめて共販金額が100億円を切った。この状況では生産者は生活が成り立たない。今後は生産者と技術面での話し合いや、瀬戸内環境等への取り組み、さらには消費者へのアピールなど、商社の皆さんとともにノリが活性するよう様々な取り組みを行っていきたい。」と挨拶、続いて兵庫県海苔入札指定商組合 松谷 晃理事長(松谷海苔(株)代表取締役社長)から「今回の大震災で宮城県のノリ生産者が大打撃を受けたことに加え、来年以降、九州地区が不漁となった時、不足分を補えるのは兵庫県だけ。生産者は厳しい状況ではあるが今後も頑張ってもらいたい」との挨拶がありました。

今漁期を振り返ると、育苗時期から高水温の状態が

続いたため張り込みが遅くなりました。その後は急激な冷え込みから水温は一転し、かなりの低水温状態が長期間続きました。これに加え、1月上旬からの栄養塩低下により長い期間、ノリの色落ちに悩まされ、生産者にとって大変厳しい状況の年になりました。一方、共販の平均単価は伸び悩みましたが、下物の相場は強い状況が続きました。

また今期は、JF兵庫漁連をはじめ各JFでノリに対する様々な取り組みが行われました。これまで各地で行われてきた海底耕耘に加え、淡路東浦地区ではすでに取り組みされていた「かいぼり」が、今年度から明石地区でも始まりました。また、JF兵庫漁連は下水道処理水の有効利用の検討を進める一方で、ノリ消費拡大に向けた新商品づくりを行っています。一部のJFは青のりの試験生産を進め、この最終共販に製品見本を提示し商社の反応を探っています。

最終的には厳しい結果に終わった漁期でしたが、これら様々な取り組みが将来のノリ生産活動に繋がることを期待します。



青のりの見本・今後の動向に注目

平成23年5月10日現在

	共販年度	共販枚数	共販金額	平均単価
本 県	平成22年	11億3,483万枚	90億9,429万円	7円99銭
	平成21年	14億2,251万枚	115億5,150万円	8円10銭
	平成20年	15億0,981万枚	121億2,525万円	8円02銭
全 国	平成22年	85億5,101万枚	785億6,692万円	9円19銭
	平成21年	80億2,391万枚	734億0,438万円	9円15銭
	平成20年	90億8,947万枚	800億2,919万円	8円80銭



今年度最終共販・見付場の様子

## 消費者の声を聞こう

### ～「兵庫のり新商品モニター調査会」を開催～

JF兵庫漁連は去る5月6日（金）、兵庫県水産会館において「兵庫のり新商品モニター調査会」を行いました。この調査会は、新たなノリの販路拡大を目的に消費者ニーズを探り、これからの商品作りに役立てようとするもので、小学生までの保護者、中・高校生の保護者、子育てを終えられた方の3グループごとにモニターを募集し、新商品の試食も交えながら行われました。

調査は5～7名のグループインタビューの形式をとり、進行役は近畿大学 日高教授、中西講師の両名にお願いし行われました。最初に「普段、どのようにノリを買っているか」という質問から始まり、緊張した面持ちで答えて



消費者の立場からの意見が出される



日高教授らによるグループインタビュー

いた参加者でしたが、質問に答えていくにつれ積極的に発言して頂けるようになりました。なかには「兵庫のり」のイメージについては「ピンとこない」、「もっと地域を限定してはどうか」といった意見が出たり、新商品のネーミングやパッケージデザイン案についても忌憚のない意見が飛び出すなど、担当者としては消費者の意見を聞くことが出来る貴重な機会となりました。

なお、JF兵庫漁連では、今回の調査で得た貴重なご意見は、販路拡大や新商品開発に生かし、より一層のノリの消費拡大に努めたいとしています。

## NEWS 各団体で通常総会が開催されました

### 厳しい環境が続くが淡路は1つ

(社)淡路水交會



淡路水交會 通常総会の様子

社団法人 淡路水交會は、去る6月3日（金）洲本市内のホテルで第42回通常総会を開催しました。総会は前田吉計会長が「漁業にとって厳しい環境が続くが淡路は一つ。互いに英知を集め、難局を乗り越えよう。」と挨拶。続いて、永田秀一県会議員、藤原道生県淡路県民局長、山田隆義JF兵庫漁連会長が来賓として挨拶された後、前田会長が議長を務め、平成22年度事業ならびに収支決算報告及び員外理事の補欠選任について審議が行われました。議案は何れも原案通り承認され盛会裏に終了しました。なお、員外理事には、県淡路県民局 新岡史郎氏が新たに選任されました。



## 中村高治氏が再選

～総会後には海上安全講習も開催～

### 淡路地区漁協青壮年部連合会

5月27日(金)洲本市内のホテルにおいて、淡路地区漁協青壮年部連合会(19会員 部員計284名)の平成23年度通常総会が開催されました。議事は山口理事(仮屋漁協青壮年部)を議長に選出し進められ、平成22年度の事業報告、平成23年度事業計画などの議案が審議・承認されました。新年度事業計画として、栽培漁業・資源管理型漁業の推進、環境保全への取り組み、「淡路の魚」のブランド化など7つの重点事項を実施することが確認されました。最後に、任期満了に伴う役員改選が行われ、引き続き中村高治氏(由良町中央漁協4Hクラブ)が会長に選任されました。

総会終了後には、神戸運輸監理部 筒井宣利課長より「Road To Safety」と題して海上安全に係る講演がありました。救命胴衣の着用推進の他、海難事故発生のメカニズムとマネジメントについて分かりやすく講演して頂き、参加者は熱心に聴き入っていました。



淡路地区漁青連総会の模様

## 大角生馬氏が再選

～任期満了に伴う役員改選で～

### 摂津播磨地区漁協青壮年部連合会

5月28日(土)、兵庫県水産会館において、摂津播磨地区漁協青壮年部連合会(13会員部員計268名)の平成23年度通常総会が開催されました。冒頭、大角会長は今回の大震災の義捐金についての御礼が述べられ、「この3年間、皆様の支援をもって続けてきた。今後も漁青連として会員間や他地区との交流を深めていきたい」と挨拶。続いて、平成22年度の事業報告、平成23年度事業計画の他、「ガザミふやそう会」の報告・事業計画などの議案が審議され、すべて原案通り承認されました。また、任期満了に伴う役員改選が行われ、会長は大角生馬氏(JF坊勢)が再選されました。

総会終了後は研修会として、JF明石浦 戎本裕明組合長より「AFARの活動について」と題して講演がありました。漁業者の新しい取り組みとして始まった「AFAR」の立ち上げの経緯や活動について丁寧に講演して頂き、参加者はメモを採りながら聴き入っていました。



摂津播磨地区漁青連総会の模様

## 一致協力し難局を乗り越えるよう…

### 淡路地区漁協職員協議会

淡路地区漁協職員協議会(浅田浩文会長: JF浅野浦 126会員)は、6月4日(土)、会員41名と洲本農林水産振興事務所 平石主幹兼水産課長、(社)淡路水交会前田会長、JF兵庫漁連突々参事はじめ系統団体から多数の来賓が出席のもと、洲本市内のホテルにて平成23年度通常総会を開催しました。

浅田会長は、「東日本大震災での惨状は我が事と受け止めている。漁業を取り巻く環境は一層厳しくなっているが、職員としてできることを皆さんと力を合わせて頑張っていきたいので協力をお願いします。」と挨拶されました。来賓の前田会長からは、「後継者育

成のためにも淡路は一つとなって頑張らなければならない。職員あつての組織ですので期待しています。」と激励の挨拶がありました。

審議に先立ち、職員功労者表彰が行われ、JF五色町の山崎栄祐氏が受賞されました。その後、平成22年度業務報告および決算、23年度計画等が審議され、全議案とも可決承認されました。

総会終了後の懇親会では、各漁協の職員、来賓を交えて、とても和やかな輪が広がり、前田水交会長のご挨拶にあった「淡路は一つ」を実感しました。

## 女性部員としてできることを

～森会長の再選の挨拶で～

淡路地区漁協女性部連合会は、平成23年5月28日（土）、女性部員32名、淡路水交会 前田会長、洲本農林水産振興事務所 新岡所長をはじめとする来賓11名が出席のもと、洲本センターにて平成23年度通常総会を開催しました。

平成22年度業務報告および決算、平成23年度事業計画等が審議されました。また、今年度で任期満了となる役員の役員改選が行われ、福良漁協女性部の森武美会長が再選されました。就任挨拶で森会長は「漁業は低迷しているが、女性部員として料理教室や浜清掃など、できることを十分に行いたい。」と述べられました。

午後からは「あなたは大丈夫？間違いだらけの年金知識」と題して明石市年金事務所より倉田治彦社会保険労務士を招いて講習会を開催いたしました。年金のことを気軽に相談しにくい漁業者やその家族にとって

## 淡路地区漁協女性部連合会

大変有意義なものとなりました。

また、今年度の記念品は「天然石けん」を配布し、女性部員はもちろん、来賓の皆様にも天然石けんの普及に取り組んで頂くよう呼びかけました。



倉田講師の講習会の様子

## リニューアルしました！ ～AFAR (アファー) のお店の紹介～



JF明石浦の若手漁師グループ“AFAR (アファー)”のお店「明石漁師めし 新浜」が移転し、去る3月24日（木）にリニューアルオープンしました。旧店舗は明石たこフェリーの構内で営業していましたが、新店舗は少し北に上がった明石市鍛冶屋町（近くには兵庫県水産会館があります）



この暖簾が目印です



お店に入ると大漁旗がお迎え



### 「明石漁師めし 新浜」

明石市鍛冶屋町4-28  
TEL 078-912-5957  
営業時間 11時～14時  
17時～21時  
定休日 木曜日  
HP <http://afar.noor.jp/>



# 県下初の「マリンエコラベル」認証

～摂津船びき網漁業協議会が取得～

「マリンエコラベル」は、水産資源の持続的利用や生態系の保全を図るための資源管理活動を積極的に行っている漁業者を支援し、消費者をはじめとする関係者の水産資源の持続的利用や海洋生態系保全活動への積極的参加を促進することを目的とした制度です。この制度を運用する「マリン・エコラベル・ジャパン」（略称：MELジャパン、以下MELジャパン）に対し、摂津船びき網漁業協議会はイカナゴ・イワシを対象とした生産段階認証を申請し、審査の結果、このたび認証が決定し、去る5月27日（金）、JF神戸市会議室において「マリン・エコラベル・ジャパン 認証証書授与式」が行われました。

この式には同協議会から井上 隆会長をはじめ役員の方々が出席。MELジャパンから日本水産資源保護協会 下村政雄専務、MELジャパン現地調査員 秋武 宏氏（前JF兵庫信漁連会長）をはじめ、来賓とし

て県、神戸市も出席し、約30名が見守るなか行われました。

式では、下村専務からこれまでの全国の取得状況とその取り組みが紹介された後、今回の認証内容が披露されました。続いて、下村専務より認証証書が井上会長へ手渡され、井上会長は「これからも資源管理を行い、水産物の安定供給に寄与したい」と述べられました。

また、来賓として出席されたJF神戸市 山田隆義組合長は「全国で7番目の受賞、おめでとうございます。漁業を取り巻く環境が厳しい中、資源管理型漁業の先駆けとなり、県下のみならず全国の漁業者の見本となって頂きたい」と挨拶されました。

なお、今回認証されたエコラベル活用期間は5年間で、5年後には再度審査が行われるものです。



認証証書を手に記念撮影  
(左から秋武調査員、下村専務、井上会長、山田組合長)



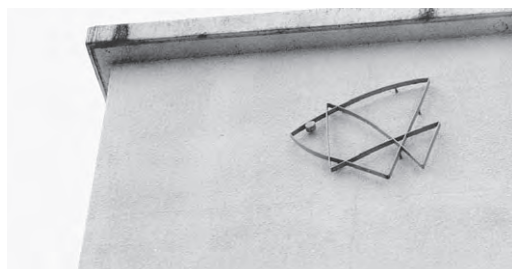
認証証書授与の様子  
～兵庫県初の認証証書を手に～

# 「鉄のさかな」モニュメントが完成!

～旧水産会館のシンボルマーク保存へ～

旧水産会館の東側面にあったシンボルマーク「鉄のさかな」が、この度、綺麗なモニュメントとして生まれ変わりました。

三角形を重ね合わせた遊び心が窺える「鉄のさかな」は旧水産会館の設計をした当時の県営繕課 光安義光氏のデザインによるもので、昭和29年の建設時に取り付けられました。



旧水産会館に設置されていた当時の「鉄のさかな」

なお、モニュメントは兵庫県水産会館正面玄関に飾られており、当時の写真なども併せてご覧いただけます。



当時の水産会館に思いを馳せて…

# 「新積立ぶらす」がスタート

(前号からのつづき)

8. 本題から外れますが加入要件との関係で、履行確認について説明します。履行とは「きっちり守ること」という意味です。資源管理計画等に参加することは誰でもできますが、当然、その計画内容をきっちり守ることが重要です。この履行確認は、「兵庫県資源管理協議会」（既設）で、漁業者1人1人について判定されます。ここで問題は、“もしも守られていなかったらどうなるのか？”ということですが、まず、資源管理計画等が守られなかった場合は、その時点で「新積立ぶらす」は解約となり、共済金の支払や積立金の払戻が予定されている場合は即時停止になります。また、既に払戻を行っていた場合は払戻金の国庫分(払戻額の3/4)を返納しなければなりません。その返納に応じない場合は次年度以降も加入できなくなります。これは、漁船漁業の場合はあくまでも個人責任ですが、養殖漁業の場合はその計画内の契約全ての連帯責任になります。更に問題は、この資源管理計画には、漁業法令違反や海区漁業調整委員会指示違反も対象になることが盛り込まれていますので、万一にも問題がでた漁業者は、逐一漁協に状況等を報告する義務が生じます。また、その報告を受けた漁協は資源管理協議会と共済組合に対する報告義務が生じるというものです。その報告を怠った場合は次年度においても加入できなくなります。なお、ここでいう漁業法令違反とは、漁業法、水産資源保護法、海洋生物資源の保存及び管理に関する法律やこれらの法律に基づく命令違反であって、司法処分又は行政処分が課されることです。また、海区漁業調整委員会指示違反とは、その指示違反に対する国・都道府県知事の命令（裏付け命令）違反による司法処分が課されることです。
9. 「新積立ぶらす」の責任期間は漁業共済と同じです。加入（月）についても漁業共済と同時加入になります。また、個人経営体の場合は個人、法人経営体の場合は法人としての加入になります。但し、協業経営体の場合は共済契約単位での加入も可能になりましたが、これには色々条件が付きますので、今まで通り、協業経営体の場合も個人毎に加入された方が良いでしょうと思います。
10. 積立金の上限ですが、「旧積立ぶらす」については800万円でしたが、「新積立ぶらす」については上限はありません。
11. 最低積立金は1万円です。「旧積立ぶらす」では積立金が20万円以上の場合には20万円が最低積立金でしたが、これも撤廃になりました。従って、例えば100万円積立てることの出来る人は1万円から100万円まで1万円単位で希望金額を指定することができます。なお、ここで前述の加入要件で漁業種類や漁獲金額によっては加入出来ない場合もあるとした点について追記します。いわゆる積立可能金額の計算は漁業種類と5中3の漁獲金額が判れば簡単に計算できますが、次表に該当する方は、計算上において最低積立金である1万円になりませんので加入出来ないということになります。また、漁業種類としては主としてサザエを獲る漁業と遊漁船業については加入することが出来ません。



漁業種類	5中3平均の漁獲（生産）金額
底引き網漁業	80万円以下
船引き10t未満、いか釣り、まき網、その他漁業	54万円以下
特定のり、船引き10t以上、かにかご漁業	40万円以下
定置網漁業	32万円以下

12. 積立金の納付については漁業共済と同様に分割納付も可能です。「初回引落しは責任開始日+45日より最初に来る8日で1/8以上、残額は責任期間の2/3の期間までに納付」が原則です。これでは何のことやら意味がさっぱり分からないと思いますが、早い話が、初回の引落しはおおよそ契約月の2ヶ月後の8日だとお考え下さい。例えば、5月1日の契約であれば7月8日にとりあえず積立金総額の1/8以上納めれば良いという意味です。なお、積立金は加入漁業者の指定口座から直接東京の金融機関への自動引落としになりますので、漁協や共済組合には一切通りません。逆に払戻等がある場合も金融機関から漁業者の指定口座に直接振り込まれることとなります。

13. 免責ですが、「旧積立ぶらす」では10万円（積立金5万円+国庫5万円）未満は免責でしたが、「新積立ぶらす」では4万円（積立金1万円+国庫3万円）になります。ただ、注意すべきことは、ここでいう免責というのは、実際の漁獲金額と払戻判定金額との差額を指しているのですが、「新積立ぶらす」の負担比率が①対③であることや、払戻が1万円単位であることから、例えば4万円～7万円の差額であっても4万円の払戻しかできなくなるということです。8万円の差額で初めて8万円（以下4万円単位で同様）の払戻を受けることとなります。

14. 積立手数料は徴収しません。

15. 解約手数料は自己都合による解約の場合に1万円が徴収されます。但し、契約者本人が

死亡された場合や廃業した場合並びに大きな天災を受けてどうしても解約せざるを得ないような場合に限り解約手数料は不要です。

16. 最後に、「旧積立ぶらす」に加入されている方の移行時の対応ですが、基本的に「新積立ぶらす」の積立金は「旧積立ぶらす」の積立金の半額になるわけですから、必要外の積立金を積んでおく必要はありません。従って、「旧積立ぶらす」の払戻判定が終了したあとで積立金に残額がある場合は、基本的には一旦全額返金（それまで一度も払戻を受けていない場合は手数料も含めて返金）して、新たに必要額を積んで頂くこととなります。これは本人の選択自由であってそのまま全額積んでおくことも可能です。

（おわりに）

今漁期は、瀬戸内海地区ののり養殖漁業や船引網漁業並びに但馬地区の沖合底びき網漁業をはじめ、その他の漁業種類においても非常に厳しい状況になっています。このため、私どもの漁業共済金も史上最高の支払いになることが予想されますし、更に、「旧積立ぶらす」の払戻についても数億円規模になるものと思われれます。

これらのことから、今や「漁業共済」や「積立ぶらす」なくして漁業の存続が難しい時代に入ってきております。どうか漁家経営が少しでも楽になりますように、より多くの漁業者の皆さんが「新積立ぶらす」に加入されることを期待しています。

兵庫県漁業共済組合（新漁業経営安定対策推進室）

# 大輪田塾だより

## ～「系統金融」と「JF共済事業」～

大輪田塾5月講座は、24日(火)に「系統金融について」と「JF共済事業について」の2講座が開催されました。

「系統金融について」はJF兵庫信漁連 里専務から、金融の基礎から今後の系統金融の在り方まで分かりやすく講義が行われました。また、「JF共済事業について」はJF共水連兵庫 磯田所長と小柴主任から講義が行われ、共済事業の概要及び商品内容、今後の取り組み方針まで詳しく解説されました。

系統金融・JF共済事業ともに塾生は利用しているものの、事業の内容や、今後の方針など詳しい説明を聞き、改めて両事業の意義や重要性を認識したようでした。



「系統金融について」の講座風景



「JF共済事業」の講義

## 大輪田塾 第7期生 募集しています

平成17年に開講された「大輪田塾」。めまぐるしく変化する社会・経済情勢に対応し、将来にはJF組織を支えていける人材育成を目的に始まり、すでに卒塾生は地域のリーダーとして活躍されています。

講義は、県・系統団体をはじめ多彩な講師陣による月1回の座学を中心に、外部研修や事務局が適当と認めた会議等も聴講できるといった幅広い知識の習得が可能なカリキュラムを組んでいます。



H23現地研修の様子



グループ演習の様子

この「大輪田塾」では現在、10月に入塾される第7期生を募集しており、主な内容は以下のとおりです。

- ◎**応募資格** ① 原則として、漁業歴10年以上かつ45歳未満  
② 原則としてJF関係役員歴10年以上かつ45歳未満  
のいずれかに該当する者で、所属する組織代表者の推薦を受けた者
- ◎**在籍年限** 原則2年(最長3年)

募集は8月末に締切、その後、面接を行い審査委員会の選考を経て、10月に入塾式を行います。積極的な応募をお待ちしています。

(詳しい募集要領は各JF・団体宛に通知させていただきます。)

問合せ先(事務局)：(財)兵庫県水産振興基金 TEL 078-919-1331



## 「株式会社 援農みのり」設立 JAみのり

5月2日、JAみのりの出資法人「株式会社 援農みのり」の清祓式(きよめはらいしき)および設立式典が執り行われた。会社の事務所、農業機械に対するおはらいとテープカットを行い、設立を祝った。

同法人は、地域の農家・集落営農組織の支援、農業後継者の育成を目的とし、資本金3,000万円で設立された。JAと連携を図りながら、農作業受託や施設管理受託、育苗作業、土壌改良材散布などを行う。代表取締役社長には、上羅堯己JAみのり代表理事組合長が就任している。上羅社長はあいさつで「地域農業の主役はJAみのりの組合員農家である。株式会社 援農みのりは彼らを支える存在であり、組合員の継続的な農業を支援していきたい」と述べた。



テープカットを行う上羅組合長ら



事務所や農業機械に対するおはらい

<http://ja-grp-hyogo.ja-hyoinf.jp/>

## 神戸北野・異人館でオープン コンサートを開催しました

神戸市民生活協同組合が受託運営している、神戸北野異人館「風見鶏の館」と「ラインの館」が保存修理工事による2ヶ月間の休館期間を経て、4月1日にリニューアルオープンしました。リニューアルを記念して、4月2日(土)にラインの館、4月3日(日)に風見鶏の館において「オープンコンサート」を開催しました。

うらかな春の季節となり、両館とも大勢の観光客の方が来館されました。ラインの館ではポップス、風見鶏の館ではクラシックを中心にした演奏でしたが、3月に起きた東日本大震災を受け、「涙そうそう」や「ジュピター」など、被災者の方に向けて心のこもった演奏が披露されました。観覧者の中には涙ぐむ方もおられ、音楽に癒されたというご意見を多数いただきました。会場では救援募金も呼びかけ、観覧者の方々から多くの支援金をいただくことができました。

北野の異人館も16年前の阪神・淡路大震災では大きな被害を受け、全国から大きな支援を頂きました。その感謝の思いを忘れることなく、両館では今後も引き続き救援募金活動を行っていきます。



優しい調べで和やかな雰囲気(ラインの館)



静かに聞き入る観客の方々(風見鶏の館)

<http://www.coop-hyogo-union.or.jp/>

# 旬に想う

写真と文  
遊方子

## グルメ食材

◆「グルメ」というフランス語はよく知られている。グルメ食材は、美食家や食通における食材のことだそうで、代表格がキャビア、フォアグラ、トリュフであるらしい。キャビアを生む親魚チョウザメは、生きた化石とも云われており、生息するカスピ海や黒海が、開発によって生息数が激減、ロシア産キャビアにマフィア絡みの粗悪品が多くなって、ランプフィッシュという魚の卵を黒く染め模造したり、いわゆるコピー商品が幅を利かせているという。

◆フォアグラは特殊な飼育法で、鶯鳥の肝臓を肥大させたものだ。フランス料理の名品としてファストクラス機内食に採用されたという。トリュフは西洋松露とも呼ぶ茸だが、フランス産は黒色、ドイツ・イタリア産は白色が多いとか。イタリアのピエモンテ地方では、石灰質の荒れ地で樅や檜・杉が疎らに生えた林の地下に育つというが、どのように出来るのか全く不明のため人工栽培は困難らしい。以前、豚の嗅覚を利用して採取したが、今は訓練した犬を使って探すという。独特の香気が美食家にとって垂涎的だという。三品とも無縁だ。

◆美食家の目が地中海に向けられている。地中海気候を反映し

て野菜は水分が少なく甘くなる。トマトも甘くて酸味が少ない。ハーブの産地だからスパイス類が豊富に多用される。地中海料理は魚介類を煮込んだり、マリネや空揚げも、自然な味にあふれており、持ち味を旨く活かして美味しいのが特徴という。月桂樹の葉を使って魚の臭みを消し、料理に爽やかさを醸し出す効果は大である。森と林の多いヨーロッパの国では、キノコが食生活に密着している。茸の季節には、市場に色んなキノコが出回り、価格も安くて日常的に食卓に出る。自然に生えた茸は採取が自由で、地主のものではないとか。しかし、採るのは使う分だけで欲張って根こそぎにはしない。グルメに羨ましい限りの話である。

◆日本でいう高級食材、松茸やカラスミ、コノワタは、世界的には認知度は低い。また中華風食材の熊の手・岩ツバメの巣・海亀スープも珍味であるが、規制もあっておいそれと手に入らない珍奇食品でもある。最近では、魚の旨さが注目され、我が国の回転寿司が欧米で人気を得ている。寿司の旨さが世界的に認識され、自国に合ったネタを使い、新規メニューが考え出されているというが、メインになる素材魚の確保が難しい時代だともいう。新しいネタを探して、担当者は東奔西走。日本では外来生物だと嫌われるザリガニを応用しようと、大量に養殖し既に買い付けを終えた寿司業者もいるとか…



【孔雀サボテン】

### お詫びと訂正

去る5月発行の拓水第655号で下記について誤報がありました。関係者の皆様には大変ご迷惑をお掛けいたしました。ここに訂正の上、お詫び申し上げます。

① 4頁「系統・漁協 新人職員紹介」のJFぎょさい兵庫 中村弘樹さんの所属部署名  
誤) 業務部営業課 → 正) 事業部業務課

② 3頁の「がっせいでっけい」の左写真下説明文  
誤) 黒アナゴを押さえる「和田部長」 → 正) 「米田店長」  
③ 10頁の県功労者表彰の経歴  
石田孝一様の経歴  
誤) (公財) ひょうご豊かな海づくり協会「理事」 → 正) 「監事」  
伊藤久一様の経歴  
誤) 元JF但馬理事/監事 → 正) 元JF香住町理事/監事

### 表紙の言葉



### JF全漁連 服部会長へ義捐金を寄託

今回の未曾有の大震災に対して全国からJF全漁連に寄せられた義捐金は約20億円(H23.5.24現在)。当初の目標額である10億円を大幅に上回る結果に、全国の皆さんの水産業に対する“想い”を見ることが出来たような気がします。ニュースから伝わる被災地は、復興に向けた活動が本格化していますが、今後も支援は様々な形で必要となります。

支援を続けていくこと、これは私たちが“被災地のことを思い続ける”ことで、これからも続けていけるのではないのでしょうか。そして被災した地区の漁業者が再び豊かな海と、活気に満ちた“浜”を取り戻すことを願ってやみません。

【報告】 JFグループ東北地方太平洋沖地震漁業・漁村災害・復興対策本部は3月17日より展開していました「がんばれ漁業募金」の中間取りまとめ結果を5月24日(火)に発表いたしましたので報告します。

第一次配分総額 合計 1,900,000,000円			
《内訳》 (主要被災県域)	(配分先)	(代表者名)	(配分額)
青森	青森県漁協系統東北地方太平洋沖地震災害対策本部	本部長 植村 正治	68,271,000円
岩手	岩手県災害対策本部	本部長 大井 誠治	721,816,000円
宮城	東北地方太平洋沖地震大津波被害対策本部	本部長 木村 稔	844,134,000円
福島	JF福島漁連	代表理事会長 野崎 哲	131,052,000円
茨城	JF茨城沿海地区漁連	代表理事副会長 小野 勲	42,427,000円
(小計)			
(その他の被災県域)	(配分先)	(代表者名)	(配分額)
北海道	JF北海道漁連	代表理事会長 櫻庭 武弘	60,521,000円
千葉	太平洋沖地震対策本部	本部長 小滝 秀儀	11,359,000円
富山	JFグループ東日本大震災支援対策富山県本部	本部長 魚崎 忠雄	3,322,000円
三重	三重水産協議会災害対策本部	会長 永富 洋一	8,516,000円
和歌山	JFグループ東北地方太平洋沖地震漁業・漁村被害・復興対策和歌山県本部	本部長 岩田 幸男	1,902,000円
徳島	JFグループ東北地方太平洋沖地震漁業・漁村災害・復興対策本部徳島県本部	本部長 利穂 博	1,196,000円
高知	JF高知漁連	代表理事会長 澳本 勝彦	5,484,000円
(小計)			92,300,000円
第二次以降配分充当額			75,211,458円
総合計			1,975,211,458円